

7 書写・書教育「やっぱり本物がいい」 報告者：苫小牧西高校分会 磯角 広一

1 今年度の分科会について

今年度はオンライン開催ということであったが、事務局にわがままを言って教職員センターに会場を確保してもらい、ズームと会場とでのハイブリッドを試みた。しかし、ズームで参加する予定の一般参加の方がいらっしゃらなかったもので、結局いつもの分科会となった。

やはり作品は生ものなので、実際に見ないとその本当の良さはわからないものだと、この分科会がリアル開催されたことに感謝いたします。

2 「11年目のもよもよ」苫小牧西高校 磯角 広一

苫小牧西高校では、3年を通して音楽と書道の選択必修の芸術授業を実施している。例年、入学者の選択希望は、音楽が書道を大きく上回っていて、生徒の意志を尊重できずに書道に変更してもらっていることに苦しんでいる。今年度は、生徒が楽しんで学習出来るようにするため教材のねらいと適切な実施時機を考え、見直しながら授業を進めてきた報告と、生徒の自主性を育むための授業方策として、生徒相互の援助が出来るように生徒の立ち歩きを認める取り組みをすすめている報告を行った。技術的なことを出来る生徒が、出来ない生徒を援助することで生徒同士の結びつきを強め、他の生徒を教えることでその生徒の学習した内容の確認と出来ない生徒が出来ないことを出来るようになることがねらいである。まだ始めたばかりなので、いろいろ整理出来ていないことが多いので、今後はこのことも報告し整理していきたい。

3 「ペン字やら教育課程やらなんやらかんやら」砂川高校 中谷 幸代

中谷氏の報告は、日々の活動実践のなかから、ペン字指導で気づいたことと教育課程について考えていることの報告であった。いつも授業実践においては、生徒に寄り添った視点でものごとを捉えている氏の報告はいつも筆者を励ましてくれているが、今回は朝学習での硬筆指導ということで、授業以外においても大変参考になる報告であった。書字に問題がある生徒が増えていることを教員が気付いていても、なかなかその改善が出来ないと考えている教員は少なからず存在するので、このような取り組みが広がり、生徒の書字の問題が少しでも改善して欲しい。

また、教育課程に関わる報告については、同じ書道科教員として実感できる内容であった。いわゆる「探究的な学び」については芸術科として担う役割が大きいと考えているが、他教科の教員に、芸術科の重要性を理解してもらえるかどうか非常に難しい課題となっていることを再確認した。

3 「生涯学習推進員5年目の活動報告」音更町生涯学習推進員 野坂 武秀

長年に渡りこの分科会活動を推進してきた氏が教員を退職され、音更町生涯活動推進員となって5年となった。その活動内容を報告した。氏は音更町内の小学校を訪問し、書写の授業で毛筆を教える活動をされているが、小学生向けにアレンジされた体操や授業法については大変参考になるもので、授業の楽しそうな様子が伝わる報告であった。

4 まとめ

今回はハイブリッド方式での研究集会になったが、世間では遠隔で会議のできるメリットとデメリットについて論議されている。この分科会においてはメリットよりもデメリットが大きく、実際に顔を合わせて互いに話すことで気持ちや感情の共有ができたように感じられた。

きっと、教育現場も同様にいくらオンラインの授業が上手でも知識や解法以上のものは伝えられないだろう。また、GIGAスクール構想でICTがいくら普及しても、人間の根幹をなす感情や愛情を育てられないだろう。コロナ禍を通して学校の役割について再確認できたことは「人間の根幹は人との関わりの中で育つもの」であろう。

最後に、この分科会を担当してくださった三田村氏に感謝申し上げます。そして、書写・書教育はきっと特別支援教育にも非常に効果があると感じているので、来年もこの分科会に同僚の教員と参加しレポート報告くださいね。